

—高牟神社がなぜ濃尾にあるのか？—

濃尾地域に展開する高皇産霊神の実像を探る

平成 31 年 3 月 2 日 (土) PM2:00

於：名古屋国際センター5F 第一会議室
神社史研究会第 46 回例会発表 在野一生

(発表のきっかけと問題意識)

- ・尾張に高皇産霊（高木）神を祭る神社が多い
- ・高座山（春日井市） *高蔵寺
春日井たたら研究会 高座山のソブ（赤水泥）で製鉄実験
- ・落合氏（高牟神社神職）との談話



高牟神社神紋は「橘」（蜜柑の原種）、奈良時代以後の四名家<源平藤橘>

(はじめに)

- ・古代像解明の手法：経験科学的推論構築（非実証主義）
Ex. 「ナカ」 那珂、那加、那賀、名嘉、中（仲）、長、永・・・古代海洋系鍛冶製鉄族開拓地
長良＝海神国 * 「役行者」前田良一：日本経済新聞社参照
- ・降臨神話と天孫 天火明命と瓊瓊杵尊
降臨＝渡来、天：天照大神、天子：天忍穗耳命、天孫：（兄）天火明命（弟）瓊瓊杵尊
* 「火」名神は鍛冶製鉄神。
- ・尾張における中心神：天火明命
尾張国一宮：真清田神社祭神

I 濃尾とタカミムスビ神

- ・神社の分布
- ・地名の分布
- *資料参照

II 史書に見る タカミムスビ神

- ・日本書記 高「皇」産霊神 * 皇祖という色彩、天子妃の系譜
 - ・古事記 天之御中主神、高御産巢日神（高木神）、神産巢日神（造化三神）
→天孫族に司令する神。天照大神より上位。
 - ・その他、延喜式祝詞、出雲國神賀詞、出雲風土記にも登場
- ※以上の書籍だけでは、なぜ濃尾にタカミムスビ神が展開するのか判然としない。
濃尾は、天孫渡来を司令した皇祖神の土地柄か？

III 高座結御子神社（熱田神宮境外摂社）

【住所】名古屋市熱田区高蔵町 9-9

【祭神】**高倉下命**

【創祀】不詳 *座=蔵=倉=狗羅（狗邪韓国）、闇、久那

神明鳥居に楠（樟脳、南方族の船材）の大木。

高蔵貝塚（弥生）、古墳時代後期の高蔵古墳群。

「高座さま」といわれ、この地方開発の祖神として仰がれている。子育ての神様として信仰が篤く、幼児の成育と虫封じとを祈願して 15 才まで子預けをし、子の無事成長を祈る習慣が愛知県から東海地方一帯に広く知られている。

→高倉下（天香語山命）が高座結の子神、であれば、天火明命が高座結神か？

IV 高座山（春日井市）

・豊富なソブ（祖父、鉄水）の存在

*赤色パレス式土器の染料。

褐鉄鉱（鈴石）、鬼板、高師小僧など水酸化鉄系は古代南方族の製鉄資源。

ソブは、砂鉄や鉄鉱石よりも鉄を生産しやすい。

・高座山北に坐す岩船神社付近の廻間 7 号墳で吹子、高蔵寺 5 号墳で鉄鐸が出土。

・高座結御子神社と高座山を結ぶ東北線上に村雲町（御器所八幡宮：高蔵大神）がある。

熱田神宮で、八岐大蛇の剣：天叢雲（草薙）剣を祭る。

※高座山は、濃尾に展開した南方系製鉄族の中心

V 海部氏勘注系図と秀真伝

・海部氏勘注系図

（天照大神—天忍穗耳命—）天火明命—天香語山命—天村雲命・・・尾張氏

・秀真伝神系図

カグヤマツミ ↓高座結 ↓高座結御子

橘山積—天香語山命—高倉下

—天道日女 ↓（養子）

|—————高倉下—————天村雲命

天火明命

VI 濃尾におけるタカミムスビ神の実像

古神社分布の観点からは、高座山周辺を先渡来の阿多（月神）族が開発したと考えられる。

次に、丹波天孫：天火明命（日神族、方形周溝墓）族との統合が進んだと推測できる。

神名から、天火明命族の技術がより高かったと想像できる。

であれば、濃尾におけるタカミムスビ神の実質は、天火明命の子神：高倉下と見ていいのではないか。

<補>

味岡庄総産土神社の「伊多波刀」名称の由縁について、海部氏勘注系図に天香語山命（高倉下）の一云として「建位起（いたて）命」とあるので、東北の出羽、伊達と同様に同命名が元と考える。